

明日に続く組織

満足したら見直しはできない。いかなる時も見直しが求められます。

これは不調なときの見直しでありません。順調な時にこそです。

事業が下向きに転じた時では既に遅いのです。

会社（組織）は見るもの聞くもの読むものでも有りません。良心に従い行動する組織です。

明日のために積み重ねでなく、未来の大きな一歩のために今日、何をするかです。

私たちは誰を満足させるかですが、事業不振の苦境からの脱出はコスト削減や効率化だけでなく、従前から抜け出せる「革新」のチャンスです。

しかし次の一手の手段もなくコスト削減や効率化では、これまで出来なかつた革新に挑まない限り、確実に縮小に追い込まれると考えます。

その場合、変革の残り時間は少ないものです。建前ではなく、顧客に何が必要かです。

本日に何が提供出来るのか。期待は何か。手立ては何か。

天は自らを助くる者を助くるものです。

この時代で私たちの使命は、顧客の税金を一元でも安くすることでしょうか。

商業道徳に欠ける事象に接するとき、それに対し黙殺は、守るべき「信」に欠けるのであります。

環境に生きる肉塊でしかない。何を提供できるかでしょう。

「名を成すは常に窮苦（ききゆう）の日にあり、事を敗るは多く得意の時に因す」

一時の困難は耐えがたくとも、当事者は大いに勇気を起こさなければならぬ所です。

実は、どんな人の順境でも逆境でも、皆自らの力でそう言う境遇を創りだしたに過ぎません。

この世は、悪者も善者も自ら知っていて自然と運命を創りだしたので、順境も逆

境も無いと言うことになる。まず、誠実に努力し運命を託すれば、公平無私なる天は必ずその人に幸し、運命を開拓するよう仕向けてくれる。

道理を伴って事をなすものは必ず栄え、道理に悖（もと）って事を計るものは必ず亡ぶのである。

道理に則って一身を終始するならば、成功失敗のごときは愚か、それ以上に価値ある生涯を送る事ができる。（論語と算盤―渋沢栄一）

亡霊をみるようです。

騙され耐えがたき苦渋を飲まされ、近隣を含めた多くの

人柱の上に今日があります。押し付けであっても日本が

世界に誇る平和憲法を脅かし、国民を人質に恫

喝し且つ蹂躪する輩に対してはイスラエル

のように、自力で対処すべきと考えるのですが。

政官財の指導者は国民を大切にするどんな国を作りたい

のでしょうか。その前に私たち一人ひとりが考え行動です。

(有)西川経営オフィスサービス
中村会計
事務所便り
2014年2月17日(月) NO 335
地域から明るい未来を作ろう

春は遠い

夜明け前が一番暗いといいますが、冬も今月は冷え込む。人間社会が作り出す環境は、地球の自転のサイクルと異なっています。自然環境の悪化は人類数千年の歴史から見れば、誤差に入るようなものでしょうが、明るい兆しがあると思えない。経済政治社会の情勢は、歴史的にみて不透明感を増し見通せない状況にあると考えます。これからも平和な太平の時代の過程でしょうか。

丸投げでいいのでしょうか。指導者はどんなシナリオを描いているのでしょうか。対米従属、敗戦後の延長がそのまま続けると見るべきでしょうか。NHK会長の権力迎合フィルターから出る、情報は戦前からの